



東北大学における取り組み

訪問滞在型研究の推進による学術のフロンティア開拓 と未来社会への価値創造

東北大学知の創出センター東北大学数理科学共創社会センター

2024年1月17日



新たな学術創出の駆動力

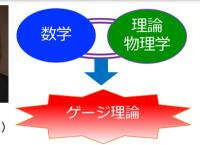
数学は外からの駆動力をうけての水平展開と、それを数理として発展させる垂直展開を繰返してきた。

20世紀から21世紀初頭は情報化社会

情報を活用して丁場等を進化

- 整った計測データ
- 情報と知識を活用した演繹的価値創造
- 部分最適の価値を提供

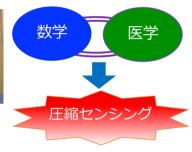




マイケル・アティヤ (1929-2019)、エドワード・ウィッテン(1951-) に よるゲージ理論と数学の出会いにより理論物理は大きく発展したが、数学 の側にも多くのパラダイムシフトがあった。20世紀後半になって新たに 社会科学、経済学、生命科学など諸分野とのインタラクションが芽生え、 それらの分野からの刺激を受けて数理がさらに発展した。

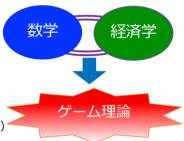








J. Nash (ノーベル経済学賞)



21世紀はデジタル化社会: Society5.0

社会全体を最適化

- 広範囲からの多様なデータを活用
- データとAIを活用した帰納的価値創造
- 全体最適の価値を提供

デジタル変革を迎えて、複雑な社会現象を扱え る数理技術がemergeしており、社会とのインタ ラクションを駆動力とする新たな数理が生まれ つつある。本事業は、日本の学術におけるこの 流れを新たなフェーズに飛躍させるものとなる。

日本で既に動き出している流れの例

ビッグデータ解析 の要請



データ構造の理解 の必要性



距離測度空間 の幾何学

分子デザイン技術 の進展



ミクロ構造とマクロ機能 の理解の必要性



離散幾何解析

Science of



新たな学術の創出

社会システム の複雑化



システムの階層構造 理解の必要性



Sciences



数理活用に対する時代の要請

Industry4.0:情報社会

情報を活用して丁場等を進化

- 整った計測データ
- 情報と知識を活用した演繹的価値創造
- 部分最適の価値を提供



Society5.0

社会全体を最適化

- 広範囲からの多様なデータ
- データとAIを活用した帰納的価値創造
- 全体最適の価値を提供

数理科学がパラダイム転換を もたらした近代の例

相場師の経験と勘による株売買



✓ 伊藤清の確率微分方程式

オプション価格付けと金融 工学の隆盛

デジタル変革によって新しい価値が生まれつつあり、新しい科学技術展開が期待されている。 そこでは物理世界とデジタル世界(デジタルツイン)をつなぐことが重要であり、**その過程** は様々な数理科学によって表現・実現される。

④統合システムを階層化してスマート社会の実現基盤とする。

圏論 ゲーム理論 モデル縮約

⑤セキュアな通信・制御による実空間サービスへのフィードバックを実現する。

暗号理論量子暗号理論

量子計算

⑥生き生きできる環境を実現 するための視点と方法論を 提供する。

数理xデザイン・アート

数理人文社会学 VR·AR

 実空間

 健康
 材料
 エネルギー
 交通
 ファイナンス

⑥ウェルビーイング

(3/6

2 モデリング

人間が生き生きできるアトモスフィア 賑わい、幸福 利便性、安心·安全 公平·公正感

社会における人々の営み

③個別システムを超える共 通構造を抽出し、統合シ ステムを構築する。

ネットワーク・同期解析 力学系理論

トポロジカルデータ解析

②実空間のデータから、 意味と構造を抽出する。

高次数理モデル

多目的最適化

AI/データ解析

①人々の営みから発する 様々な欲求を抽出する。

データ駆動モデリングマッチング理論

数理経済·保険

後追いの感染症対策



M SIRモデル

感染症の伝播予測の実用化

盗聴可能な情報通信



′数論に基づく暗号理論

セキュアな通信の確保による電子商取引の普及

増加する医療被ばく



スパースモデリング

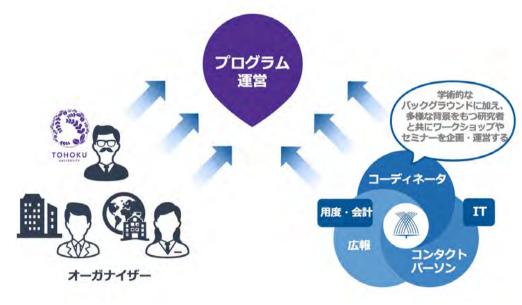


圧縮センシング技術の確立に よる低侵襲・低負荷医療診断





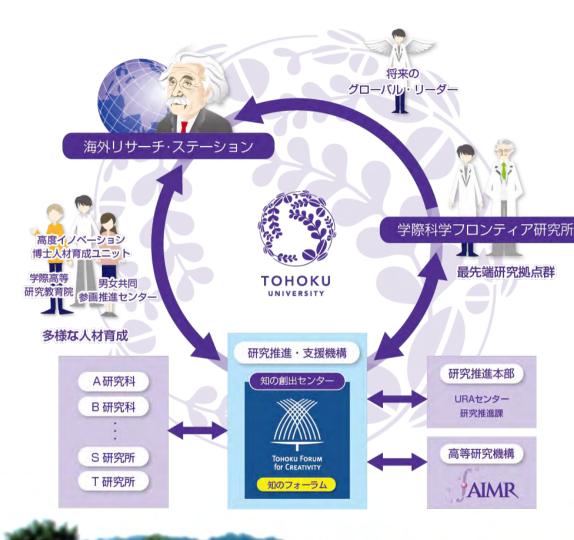
人が集い共に学び創造する 訪問滞在型研究施設





- 人類社会の共通課題解決に貢献する「知の共同体」の形成
- 人類の未来を築くグローバル人材の育成
- 知の裾野を広げる社会貢献
- 創造的な研究活動を促進する情報環境の創出支援

国際頭脳連携の場「知のフォーラム」による研究力強化



2013: 知の創出センター設置

2013: 知のフォーラムプログラム開始 2014: Falling Walls Lab Sendai開始



組織の整備と基盤プログラムの開始

2015: TOKTO ELECTRON House of Creativity) 竣工



物理的な場の整備とプログラム拡充

2016: ジュニアリサーチプログラム開始

2020: 実験家のためのデータ駆動科学オンライン

セミナーシリーズ開始

2020: 未来社会デザインハブ設置

2021: 未来社会デザインプログラム開始



さらなる発展へ

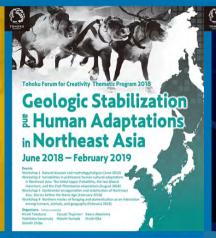
- ◆ 数理科学×ドメイン科学
- ◆ 若手育成プログラム群
- ◆ 人文社会科学との連携による総合知構築
- ◆ 国内外の大学からの参加、若手・学生の参加

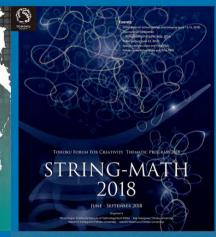
6

人文社会科学分野までを含むテーマプログラム群

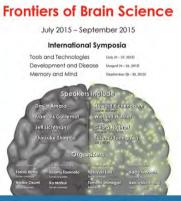






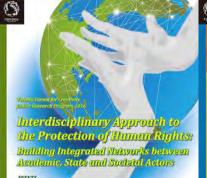






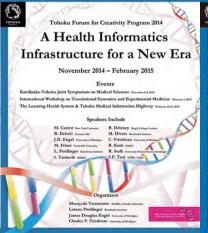
Tohoku Forum for Creativity Thematic Program 2015















知の創出センター プログラム公募の概要

*学術イベントの例…国際ワークショップ・国際シンポジウム・集中講義・公開講座・市民カフェ など

プログラム名		Thematic Program	Junior Research Program	Future Society Design Program
ねらい		人類社会の共通課題解決に貢献する新しい学際的研究の開 拓	若手研究者の学際的研究の支 援と次代のグローバルリー ダーの育成	総合知による社会課題解決や研 究成果の社会実装を考慮した未 来社会のデザイン
構成要素		■ 著名海外研究者の長期滞在■ 複数の学術イベント*■ 若手との相互触発的な交流	■ 若手研究者主導■ 著名海外研究者の長期滞在■ 複数の学術イベント*	■ 企業等関係者との協働■ 複数の学術イベント*■ 若手との相互触発的な交流
開催予定年度		2024年度	2023年度、2024年度	2023年度、2024年度
申請条件	申請者資格	■ 国内外の研究者	■ 博士号取得から10年以内の 東北大学の研究者	■ 東北大学の研究者
	オーガナイ ザー要件	東北大の研究者(1人以上)複数分野からの研究者海外研究者を含めることが可能	■ 複数分野からの若手研究者■ 海外研究者を含めることが可能	■ 複数分野からの研究者■ 企業等関係者の参加(必須)■ 海外研究者を含めることが可能
	申請言語	■ 英語	■ 英語	■ 英語 or 日本語
支援内容	財政支援	Type A: 1000万円 Type B: 500万円	300万円	300万円
	実務支援	■ 専属コーディネータ、スタッフのサポートによる実務負担の軽減 プログラム運営・研究者招聘手続き・イベント広報(HPやポスター作成)等■ 「知の館」(TOKYO ELECTRON house of Creativity) の利用		

各プログラムに対する 今後の発展の方向性

数理×ドメイン科学連携の推進

- 数理×環境科学
- 数理×医科学
- 数理×人文科学
 - . .

若手のためのプログラム群を充実

- 頭脳循環
- バイリンガル人材の重要性

研究成果の社会実装

- 産業界との連携
- 未来社会のデザイン



国際頭脳循環プログラム



国際インターンシップ G-RIPS-Sendai

- パートナー企業が根本的な解決を 求めている課題を提示
- 数学系大学院生で日米混成チーム を構成
- 2ヶ月間の<mark>有償長期</mark>国際インターン シップ

RIPS-Los Angeles (2001~)



UCLAで20年の実績 (パートナー企業は、Google, IBM, Disney, Symantec, AMD, NASA, NOAA, ロス市警など)



国際展開へ

Berlin 2010~ 仙台 2018~ Singapore 2019~

G-RIPS-Sendai (2018~) JAIMR



- □ IPAMとの連携により、知の創出センター、AIMRにおいて開催
- □ パートナー企業が根本的な解決を求めている課題を提示
- □ ひとつの課題あたり米国人学生2名+日本人学生2名の数学系大学院生でチームを構成
- □ 数学研究者が企業で働くことのリアリティを知る機会
- 2ヶ月間英語で研究・生活することによる異文化コミュニケーション向上

プログラム実施スケジュール



Opening Day

パートナー企業の担当者からプロジェクト内容の説明があります。説明を受け、チームごとに詳細の議論をします。

研究計画策定

チームごとに各メンバーのバックグラウンドを考慮して研究の進め方を検討し、研究計画書としてまとめます。

研究開始

パートナー企業から研究計画の承認を得て、研究を開始します。週5日集中して共同研究に取り組みます。研究の 過程で出てくる様々な疑問や困難については、パートナー企業が配置するインダストリアルメンターと、東北大 学の若手研究者が担当するアカデミックメンターが相談に乗ります。

日本語・日本文化クラス

期間中複数回開催され、毎回違った日本文化を学ぶことができます。今年は日本語入門の他、茶道や習字、七夕 飾り作りを体験しました。日本人学生も一緒に参加することができます。



オープニング



サイトビジット

中間報告会

メンバーが分担して英語で研究経過報告のプレゼンテーションをします。発表後はチームのメンターとメンバーとで話し合い、最終報告会に向けさらに研究の中身を練り上げます。

サイトビジット

パートナー企業の研究所等を訪問し、設備の見学や研究についての議論を行います。

最終まとめに向けた研究深化

Project's Day (最終報告会) に向けて研究を深めていきます。

報告書作成

研究の成果を報告書の形にまとめます。

Project's Day

メンバーが分担して英語で最終プレゼンテーションをおこない、質疑応答を通して議論を深めます。



企業からの参加・議論



最終報告会プレゼン



US学生向け日本語クラス







富士通: Enhancing explainability of modern Al

AIの説明可能性の強化

三菱電機-1: Construction of metrics for map matching between travel trajectories and map graphs

不完全地図情報に対するメトリック構築

三菱電機-2: Novel technique to estimate wave spectra using ocean HF radar for environmental monitoring

海洋HFレーダを用いた波浪スペクトル推定技術

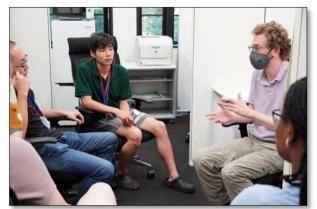
NEC: Automated negotiation for supply chain management

AI交渉エージェントによるサプライチェーンマネジメント

IHI: Mathematics for trajectory extrapolation using vehicle and human traffic data toward zero traffic fatalities

車流・人流データの軌跡外挿によるリアルタイム交通制御









最終報告会でのプレゼンテーション



休日の様子

数学科の大学院生として、G-RIPSに参加する以前の私の研究活動はゼミで他の大学院生や教授の前で発表する機会はあったものの、たいていの部分においては一人黙々と抽象的な概念の理解と問題の解決に取り組むものだった。G-RIPSにおける研究活動は多くの点でこのような普段の研究活動とは異なるものだった。そこでは様々なバックグランドをもつ人々と協力して1つの課題に取り組む必要があり、メタ的なレベルでいえばコミュニケーションスキルやチームワークなど多様なスキルが求められることなった。今回の体験を通して私は自身の夢をより明確に描けるようになった。





今まで受けてきたどんな教育よりも実践的な学びのような分野に力を入れてとるかということを知ることができ,今後技術開発等に関わっていきたいと考えている学生にはとても魅力的な研究に携わることができました.

このG-RIPS Sendaiの経験を 通して、私は応用数学に対す る研究方法に関して新たな気 づきを得ることができました。



経団連数理活用産学連携イニシアティブ

- 産学の出会いの場として、2019年に経団連イノベーション委員会企画部会と数学界の議論を開始
- 経団連での数学に対する見方・要求・必要性と、それに応え得る形について議論
- 2021年からオンラインでスタート、2022年からは経団連会館にて対面実施
- 数学界側からの研究例、産学連携例の紹介と、産業界側からの実例紹介などを組み合わせて実施
- この場での出会いから共同研究への発展





2022年7月25日経団連会館にて対面で開催した第5回会合での話題提供



2022年5月25日経団連会館にて対面で開催した第4回会合での数学者-企業ネットワーキング



経団連数理活用産学連携イニシアティブ会合記録

プレ会合 2021年3月2日 (オンライン)

「数理とAI・データ科学で支える未来社会医療」東北大学WPI-AIMR教授・水藤寛

第1回 2021年7月16日 (オンライン)

「数学界からの提案」東北大学理事・副学長、総合科学イノベーション会議員・小谷元子 「メタ数学によるシステムデザイン―Science of Sciences としての数学 – 」NII教授・蓮尾 一郎

第2回 2021年9月10日 (オンライン)

「トポロジカルデータ解析を用いたデータ活用社会の実現」京都大学高等研究院教授・平岡裕章

第3回 2021年11月10日 (オンライン)

「流れのトポロジー解析による数理・産業連携 MathClinicを通じて」京都大学理学研究科教授・坂上貴之

第4回 2022年5月25日(対面)

「スマートシティ推進における数理活用」数学界からのショートプレゼン及び産業界からのコメント

第5回 2022年7月27日(対面)

「日本の数理科学14拠点における活動紹介」

第6回 2022年12月21日(対面)

「理研×JSOLから産業の数理活用事例紹介」「異分野異業種交流会の紹介」

第7回 2023年3月27日(対面)

「離散最適化による社会システムデザイン」九州大学IMI教授・神山直之「九州大学、東北大学での取り組み紹介」

第8回 2023年6月6日(対面)

「数理が切り開く先端AIテクノロジーによる社会価値創出」富士通株式会社・穴井宏和 「数学的アプローチによる深層学習研究」統計数理研究所教授・福水健次

第9回 2023年11月30日(対面)

「データコラボレーション技術による分散データ活用」筑波大学人工知能科学センター教授・櫻井鉄也「クロスドメインでの活用を見据えたデータ保護技術」株式会NTTデータグループ・繁住健哉「リザバーコンピューティングを用いたソフトセンサ技術」三菱重工業株式会社・立石浩

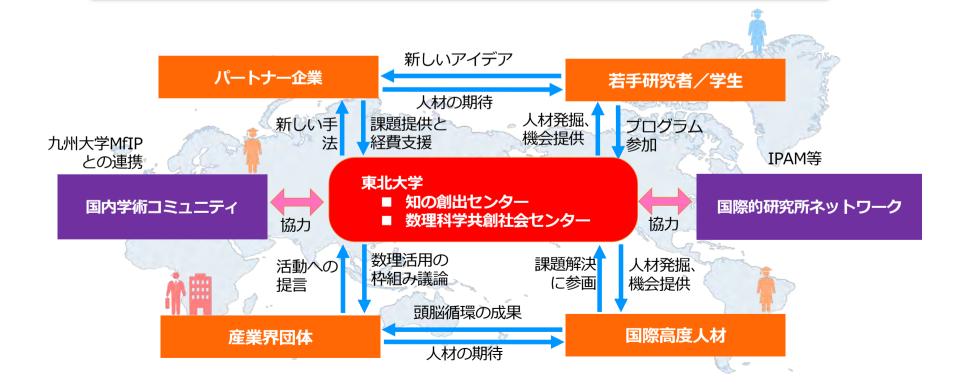
第10回(予定) 2024年1月31日(対面)

「キヤノンの製品開発における物理シミュレーションの活用と将来の課題」製品技術第二開発センター所長・永根浩平 「数理で支援:競争から共創への物流改革」九州大学マス・フォア・インダストリ研究所准教授・吉良知文 「キャンパスにおける再生可能エネルギーと次世代モビリティとの連携」東北大学材料科学高等研究所教授・安東弘泰



これまでの蓄積を活用し、訪問滞在型研究所の特徴を生かした拠点として我が国と世界の数理科学の発展に寄与していく。

- 国内外の幅広い研究機関からの研究者・学生の参加による数理科学 の拠点を形成し、我が国の数理科学の発展の推進力となる。
- 訪問滞在型研究所だからこその、新しいプログラム群の実施により、 数理科学を核とした未来社会の価値創造につなげる。





2023年度新たに実現した取り組み

- 全国の大学の異なる分野の研究者が集まる知の創出センター事業として未来社会 創生プロジェクトの試行(コーディネーター2名を雇用)
- 全国の大学の数理人材と企業の出会いの場としての異分野異業種研究交流会の運営(教員1名と事務員1名を雇用)

整備途中の取り組み

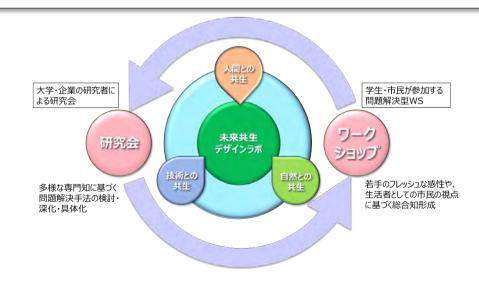
- 幅広い業種の産業界をターゲットとした逆引き型数理リカレント講座の構築(運営委託の検討)
- 九州大学と連携し、産業界を対象とした<mark>数理課題相談窓口</mark>を運用(兼務教員1名を配置)
- 今後の全国の大学への展開に向けたオープンイノベーションセッションでの若手 研究者による企業数理課題発掘(若手教員3名を新たに雇用)

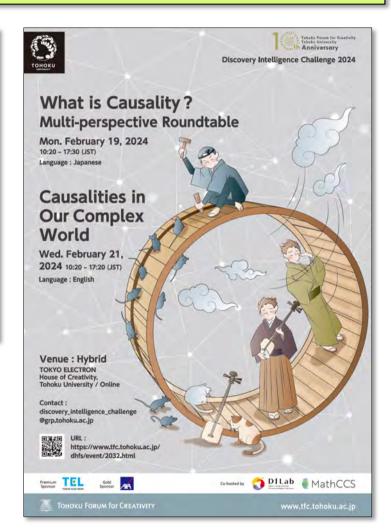


新たに実現した取り組み:未来社会創生プロジェクトの試行

知の創出センターの基幹プログラムのひとつとして「未来共生社会創生プロジェクト」を新たにスタート

- ➤ 知の創出センターの既存プログラム群 (Thematic Program, Junior Research Program, Future Society Design Program) ではカバーしていなかった新たな領域の開拓が組織整備によって実現
- ▶ 産業界からの支援・参画を基調とする新しい形
- ▶ 組織整備によってコーディネーター2名を雇用
- ▶ 訪問滞在型の機能を生かし、全国の大学、産業界、異分野の研究者が出会い、対話し、連携する場を提供
- ▶ 異なる分野の研究者が出会うことによる新たな連携に基づく、長期テーマプログラムへの発展、研究費の申請等をアウトカムとして期待





初企画: 2024年2月実施予定

「因果概念に対する哲学+数学+物理からのアプローチ」 「現実社会の問題に対する因果推論の適用」



新たに実現した取り組み:数理人材の企業との出会いの場

異分野異業種研究交流会の運営事務受託

- ▶ 異分野異業種研究交流会の主催団体である日本数学会、日本応用数理学会、統計関連学会連合の3学協会から新たに運営事務の委託を受け、数理科学コミュニティと産業界を繋ぐ場として維持・発展、コロナ後の対面開催を再開
- ▶組織整備により教員1名と事務員1名を雇用。多数の参画企業との交渉・調整を担当い、会場担当校と協力して運営にあたる
- ▶経団連数理活用産学連携イニシアティブの活動ともリンクさせることで、参画企業規模拡大への取り組みを進めることが可能になった。

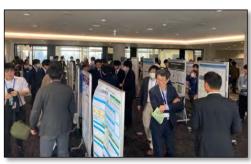
数理科学に関わる研究者・学生と、 多様な業種の企業との出会いの場 として機能している。





4年ぶりの対面開催で、数理系の学生を求める企業と大学院生との議論が繰り広げられた。









整備中の取り組み:逆引き型数理リカレント講座の構築

企業現場での必要性から逆引きした実務駆動数理リカレント講座を提供し、リテラシーレベルから専門家育成に至るまで数理に関する社会への広がりを実現する。

- 数学コミュニティと産業界が出会う様々な場、特に経団連数理活用産学連携イニシアティブの会合、オープンイノベーションセッションなどを活用し、必要性の高い提供項目を抽出している。
- 2023年度中にパイロット講座を実施予定
- 講座運営部分の外部委託の検討を進めている。組織整備により、研究者の研究時間確保と事業の効果的な運営の両立を実現

学習レベルの向上に貢献

コース構成例

	短期的視点	中期的視点
【管理職】 事業戦略	■ システムデザイン のための論理学	■ システムデザインのための圏論■ 将来予測のための確率微分程式
【中堅】 技術開発戦略	■ 統計的推論のための確率論・統計学■ AI・機械学習のための線形代数	連続体力学シミュレーションのための微分積分・線形代数データ駆動モデリングのための微積分・確率論
【若手】 技術開発	■ データサイエンス基礎講座	■ CG・ビジュアリゼーションに必要な 微分積分・線形代数・幾何学







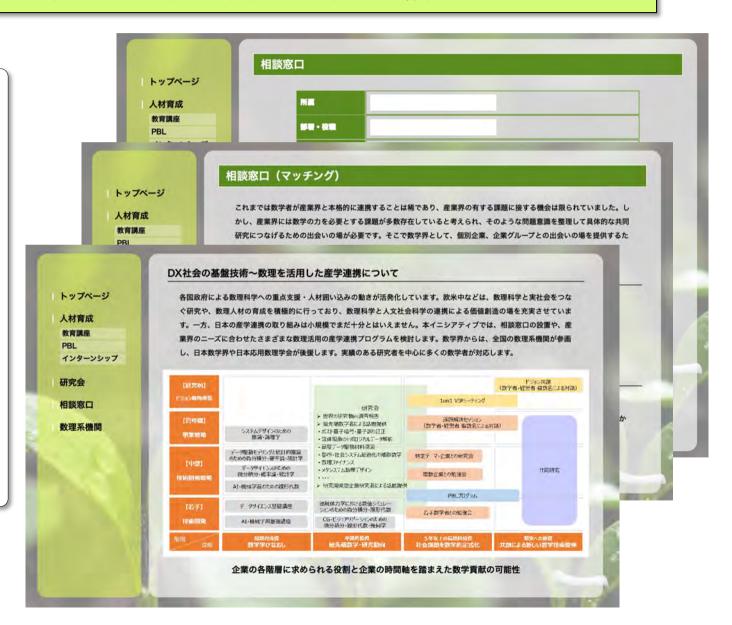
(テーマを絞っての先行実施例)



整備中の取り組み:数理課題相談窓口

産業界での数理的課題に対する相談窓口を設置し、相談チャンネルの多様化を実現

- 経団連数理活用産学連携イニシアティブから発生する相談を受け付ける窓口として2023年度に設置、担当教員1名を配置
- 九州大学のプラット フォームとの連携によ る効率的な対応
- 経団連での活動の他、 オープンイノベーショ ンセッションやG-RIPS、 インターンシッププロ グラムなど、様々な接 点から芽生えた相談案 件を受け付ける窓口群 のひとつとして機能さ せる。





整備中の取り組み:企業数理課題発掘

オープンイノベーションセッションにおける若手研究者による企業数理課題発掘





2023年12月実施風景

- ▶ すでに問題意識が確立している研究者の集まりではなく、 数学者の発想に触発された企業人が自由にアイデアを出 し合い、企業の課題についての議論を発展させる場
- ▶組織整備によって雇用した若手研究者がインスピレーショントークを担当
- ▶効率的なファシリテーションを専門業者に委託(組織整備関連プロジェクト)



- 学生・若手研究者向けチュートリアル、長期テーマプログラムへの埋め込み型サマースクールの実施などを通して、 数理的な思考で科学・社会の課題 に取り組む人材を育成する。
- 数理的素養を持つサイエンスオフィサーを配置。教員の身分で、学問の中身 に踏み込んだプログラム運営を行う。
- 各年度の長期テーマプログラムの中に、数理x領域科学(他の自然科学分野、人文社会科学分野、産業界を含む)のテーマを1件以上含め、数理科学と他分野の出会い・連携の場を提供する。



- 国内外の幅広い研究機関からの研究者・学生の参加による数理科学の拠点を形成し、我が国の数理科学の発展の推進力となる。
- 訪問滞在型研究所だからこその、新しいプログラム群の実施により、数 理科学を核とした未来社会の価値創造につなげる。